


提出 順番	No. 8	令和 6 年 2 月 26 日 午前・午後 3 時 37 分受領
----------	----------	-------------------------------------

令和 6 年 2 月 26 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

幕別町議会議員 谷口 和弥 

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨
<p>1 大谷選手のグローブを子どもたちの夢と勇気のシンボルに</p>	<p>アメリカ・メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が全国の小学校に贈ったグローブが、昨年末に幕別町内の9小学校にも届いた。大谷選手は北海道日本ハムファイターズ時代、「北海道 179 市町村応援大使プロジェクト」の一環で 2016 年の 1 年間、幕別町の応援大使に就任し、幕別小学校訪問や町民対象トークショーを通しての交流、幕別町成人式でのビデオメッセージやコミュニティバスにラッピングされるなど、幕別町にご縁があったスポーツ選手のひとりである。</p> <p>大谷選手からプレゼントされたグローブ（以下、大谷グローブ）が各小学校の備品のひとつとなるだけでなく、子どもたちに長期に渡り「夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなれること（大谷選手のメッセージより抜粋）」となるように大切に使用・管理していただきたいと願っているところである。</p> <p>ついては、以下の点を伺う。</p> <p>(1) 大谷グローブの管理はどのようにされているか。</p> <p>(2) 大谷グローブを「見てみたい」「触れてみたい」と希望する町民の思いを叶える方法の検討を。</p>

2 「北海道応援大使プロジェクト」の有効利用で町の活性化を

「幕別町を応援しています」と書かれ、ファイターズの新庄剛志監督を中心に9人の選手が並んだ青色のポスターが、幕別町のあちこちで見かけられている。北海道日本ハムファイターズ球団は2013年から10年間、「北海道179市町村応援大使プロジェクト」の取組を実施した。2023年からは新たな「北海道応援大使プロジェクト」をスタートさせ、2024年は十勝総合振興局管内19市町村のエリアを対象に実施されている。

ファイターズ球団サイドから発行されている「北海道応援大使プロジェクト事業ガイド」によると、同プロジェクトは無償部分と有償部分があり、それぞれ提供されるサービスの具体例が示されている。どのサービスを利用するかは対象自治体から「企画申請書」を提出する仕組みとなっている。

幕別町は「北海道応援大使プロジェクト」をどのように利用し、町の活性化につなげようとしているのか伺う。

3 防災訓練を計画的に実施し、幕別町を災害に強い町に

昨年7月21日、幕別町・池田町・豊頃町・浦幌町が、「東十勝4町による広域防災に係る相互応援に関する協定書」を締結した。協定の目的はその第1条で「平常時及び災害時等における防災に関して、国及び道と連携を図るとともに、提携町が相互に協力することにより、災害対策の強化及び災害が発生した場合における迅速な応急活動を通じて被害の軽減を図り、もって提携町住民の安全を確保すること」とし、第2条・第3条では、災害時だけでなく平常時においても相互協力を行うとしている。

今年になってから東十勝4町はそれぞれ防災に関わる訓練を行なったことが報道されている。幕別町においては2月9日に幕別北コミセンで同コミセンの避難所担当職員らが参加し、文書によって案内された町内の防災士・北海道地域防災マスターの見学する中で「避難所開設訓練」が行われた。「令和6年能登半島地震」を新たな起点にして、冬期間の災害に対する備えや防災訓練の重要性が再認識されているところである。

ついては以下の点を伺う。

	<p>(1) 2月9日に実施した「避難所開設訓練」の総括の内容は。</p> <p>(2) 幕別町内の自主防災組織の昨今の活動状況は。</p> <p>(3) 今後の幕別町による防災訓練の実施予定は。</p> <p>(4) 防災士及び北海道地域防災マスターといった有資格者の育成や組織化の考えは。</p> <p>(5) 「北海道地域防災計画」が今年1月16日に修正され、「避難所における冷房の確保に留意する旨」が追加された。</p> <p>これによって「幕別町防災計画」も変更されることとなるが、幕別町は避難所の冷房の確保の留意をどのように進めていこうとしているのか伺う。</p>
--	--

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。